

在学生・入学をご予定の皆様・ご家族保証人の皆様へ 2023年3月25日・27日

恵泉女学園大学 学長 大日向雅美

学長の大日向でございます。

本日、このようなご説明を差し上げますこと、まず心からお詫びを申し上げます。

ここにお集りくださいました皆さま、ウェビナーでご参加いただいております皆さま、卒業生・在学生・入学を予定されている高校生、そして、それぞれのご家族保証人の皆様のお心をお察いたしますと、どのような言葉をもってしても十分ではないことを思っています。

やがて閉学することを前提とした来年度の募集停止は、理事会も万やむなしとの決議であったことは、ただいまの理事長・学園長からの説明にあった通りでございます、その決議を大学として苦渋の内に受け入れたところでございます。

私どもは今、深い悲しみと大きな痛みの中におりますが、在学生、これからお迎えする新入生、そして、巣立っていった卒業生のために、できうる限りの力を尽くして恵泉女学園大学の教育をまっとうさせていただく覚悟でございます。

本日、ここに陪席させていただいております大学教職員を代表して、学長として皆さまへの衷心からお詫びと共に、これからの本学における教育について、皆様へのお誓いの言葉を述べさせていただきます。

恵泉女学園大学は1988年の開学以来、世界平和の構築に尽くす自立した女性を育成するという、学園創立者河井道先生が女子教育にかけた理念と祈りを継承発展させる女子の最高学府として、その務めに励んでまいりました。

未曾有のコロナ禍に閉ざされた3年余り、またロシアのウクライナ侵攻をはじめとして、世界各地で起きている理不尽な戦争・紛争等、近年の国内外の情勢をみると、河井先生が目指された「聖書」「国際」「園芸」の学びを礎として世界の平和に尽くす自立した女性を育成する使命は、今こそ、改めて求められていると考えます。

女子大学としてその使命を果たすべく、ここ数年、力を注いでまいりました「生涯就業力」は、誰一人として取り残さない・取り残されない「共生社会」を牽引する新しい真の女性活躍に通じる力であり、これから生きる女性の人生を確かなものとするという私どもの信念に揺らぎはありません。

この信念はけっして私どもの内々の思いだけではなく、各方面から支持と評価をいただいております。

そのいくつかをご紹介させていただきます。

○まず1つは、韓国梨花女子大学との学術協定でございます。

梨花女子大は130年余りの歴史と規模を誇る世界有数の女子大学で、これまでもあまたの競争的リーダーを世界中に送っている大学ですが、従来の女性活躍像の限界を認識され、それに代わる新たなリーダー像を求めて本学の教育に着目されました。2018年に現職総長が来日され、この場で学術協定を結ばせていただき、今も継続しております。

本学が掲げている新たな女性活躍像とは、これからの共生社会を牽引する「分かち合い」のリーダーであり、それを叶える力として「生涯就業力」を私が学長に就任した2016年以来、全学あげて取り組んでおります。

いつ何があっても自分を大切に。自分の大切さを知る人として、他者のかけがいのなさを尊重し、身近な方に、そして、地域に尽くし、世界の平和に貢献する努力を続ける人となる力。これが「生涯就業力」であり、90数年前に学園を創立された河井道先生のお心を女子大学として継承したものでございます。

○「生涯就業力」に裏付けられた分かち合いの心をもって女性たちが自分らしく活躍できる社会を築く必要性について、私は先日3月9日の参議院予算委員会公聴会（社会保障・少子化対策・教育問題）で公述人として意見を述べました。議場から賛同の声をいただきました。委員会終了後も十数名の議員が私を囲んでくださり、“恵泉女学園大学は本当にすばらしい教育をしている。今、これからの時代・社会に本当に必要な教育をしておられるのですね”と評価の言葉をたくさんいただきました。

この度の募集停止を知った方々からも、直接間接に続々とお声を頂戴しております。

○キリスト教学校教育同盟理事長で立教大学総長のお言葉です。

恵泉女学園大学は、創立者である河井道先生を根本原理とし、きわめて良質な教育をテーラードメイドで施している、日本の高等教育においても稀有な存在です。今回の決定はもちろん苦渋の末だと思いますが、恵泉が大切にしてこられた理念を、今後も、全国のキリスト教大学全体で継承していきたいと思えます。

○また高校の先生からいただいたお言葉です。

“学生というより、人間を大切にする恵泉のお考えにひかれて生徒を送らせていただけてきました。受験生がほしいだけの学校が多い中、人を育てることを開学以来貫いていらした先生方・職員の皆様に感謝申し上げます”。

○募集停止を知った卒業生から、連絡がありました。卒業生にとっていずれ母校がなくなる日が迫っていることを私は心から申し訳なく思い、詫びました。卒業生はこう言ってくれました。「先生、申し訳ない、などとおっしゃらないでください。母校はなくなったりしません。多摩キャンパスで私は先生方から、職員の方から本当に丁寧に育てていただきました。恵泉で受けた教育は今、私の中にすべて残っています。今こうしてあるのは恵泉のおかげです。そして、それは私の娘にも伝わっています。母校はなくなりません」。50代の卒業生です。

他の教職員にも卒業生から次々と声が届いています。

とても残念ですが、私たち卒業生はしっかり恵泉の魂を受け継いでいます。大丈夫です。恵泉が蒔いた種はしっかり芽吹き、根をはっています。ただ中におられる先生方、職員の皆様、学生たちのことを心配して祈っています。

○最後に多摩市長のお言葉をご紹介します。

恵泉女学園大学は多摩市の宝です。この度のことに大変衝撃を受け残念に思っておりますが、在学している限り、卒業生や教職員の皆様が夢を描かれている限り、しっかり応援させていただきます。

こうした声に接して、思います。本学が開学以来、積み重ねてきた教育をここ多摩キャンパスで継続発展する道は、残念ながら来年度の募集停止によって閉ざされることとなりますが、しかし、私どもには今、希望の光も与えていただいております。

在学生、新入生が恵泉で学べて良かったと心から思っただけ卒業して下さるよう、そして、卒業後も長く大切に生き続けることができる教育にこれから力を尽くさせていただくことが、今、私たちができる継承発展の道です。

それを私どもは全力でやらせていただきます。

自然に恵まれた美しいキャンパスの中、小規模大学の特性を生かした丁寧な教育のもと、学生一人ひとりが自分の大切さに気づき、他者を尊重する心を育みながらしなやかに成長していく姿を間近に見ることができる、これに勝る喜びはありません。

社会に巣立っていった卒業生が、どこにあってもなくてはならない人として、それぞれの場で尊ばれていることも、私ども教職員の大きな心の支えです。

過去、閉鎖した他大学の中には、理事会等と争議を起こしたところもあったと聞いておりますが、恵泉女学園大学はそのようなことはいたしません。学生を不安にさせないよう、大学教職員が心ひとつに頑張ります。学生を守るため、卒業生の誇りを守るためです。それを学園、理事会ができる限り応援してくれることを信じております。

私自身、恵泉女学園大学がより良い終わりかたをするよう、最後まで学長として力を尽くすよう理事長から託されております。私に残された時間のすべてをかけて、学生の皆さまに尽くさせていただきます。卒業生のためにも恵泉女学園大学の誇りを守ることに努めさせていただきますことを、ここにお誓いさせていただきます。

以上でございます。有難うございました。